

ウクライナ避難者との文化交流の継続

勝浦ゼミナールII 蓼沼 & 村田

ログハウス建設後も様々な文化交流を…

私たちは2023年の夏、ウクライナ避難者の方々と共にログハウス建設を行いました。しかし、その活動は単に「ログハウスを建設する」というのが目的ではなく、日本を選んで避難してきてくださったからには、この日本にいる期間で文化交流を楽しんだり、安心感をもって過ごしてほしい。そのきっかけの1つとして行った活動でした。今回私たちが発表するのはそのログハウス建設後の文化交流の様子です。



I ログハウス建設



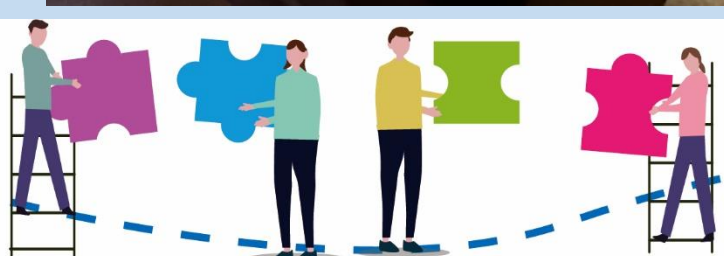
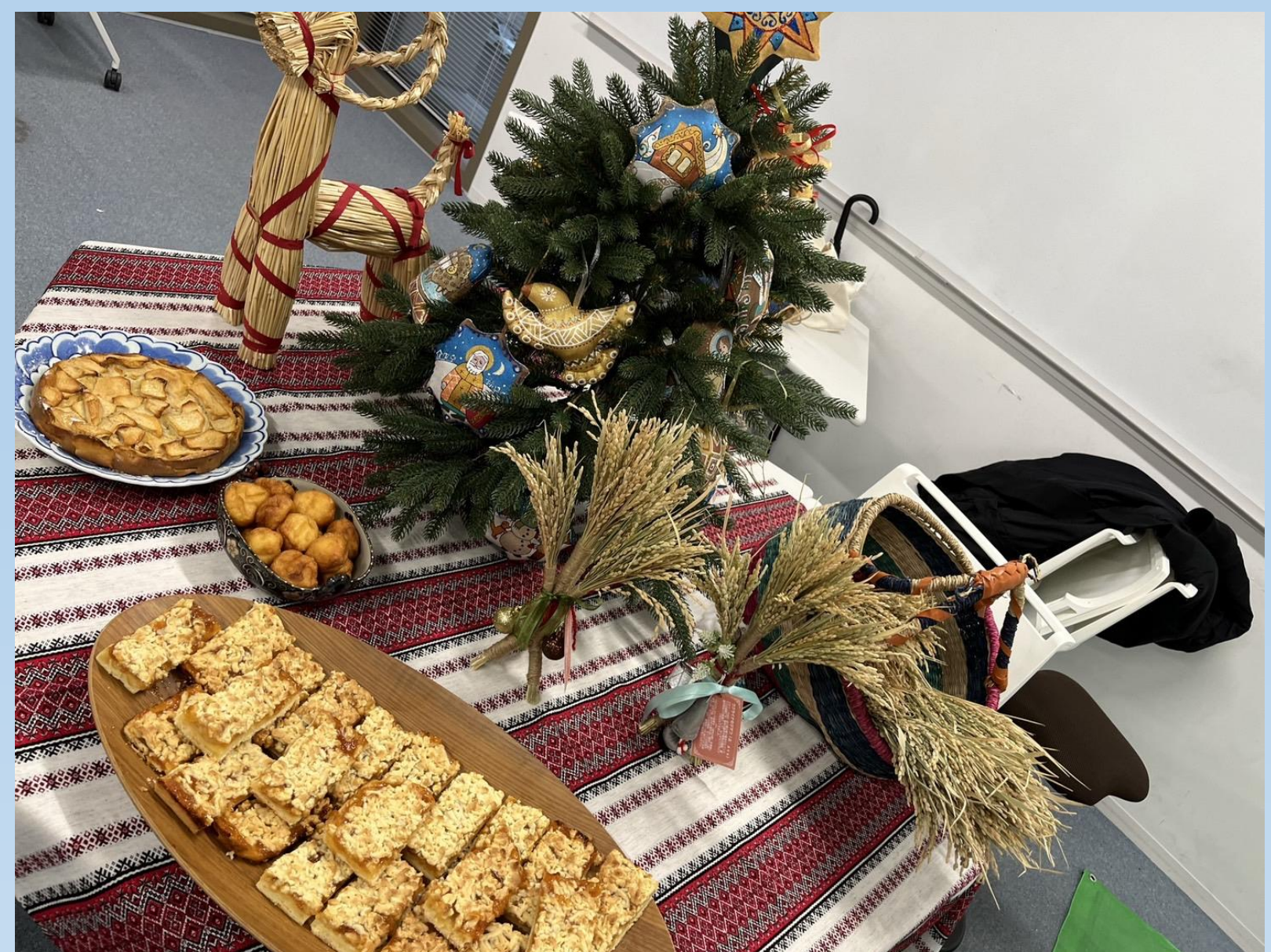
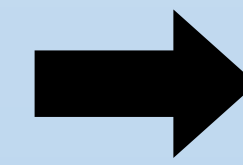
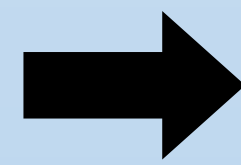
II ジヅフ制作



III ピサンカ制作

II ジヅフ (Diduh) 制作

ジヅフとは「祖先の霊」という意味で、家の中の上座に置かれ、クリスマスの際は先祖が宿り家族を一つにし幸福を授けるとされています。小麦が主な材料で、縁起の良いものとして古くからウクライナで作られています。そのほかにも、ウクライナのスイーツを頂いたり、クリスマスの文化について語り合いました!!



皿ピサンカ制作

ピサンカとは**平和を願うもの**で、鶏の卵から注射器で中身を抜いて、ロウや酢で模様や色をデザインして作られます。ロウを塗り、それぞれ違う色の付いた酢につける作業を三回繰り返すのですが、ロウをつけた部分には酢が付かないので、酢で色を付けた後ロウをふき取るのを繰り返して、三種類の色を卵につけます..これがまた難しい!!!!



最後に...

私たち勝浦ゼミがチームで行った活動を発表するのも、今回が最後になるかと思います。私たちは環境に恵まれ、これまでたくさんの繋がりを作ってくださった先輩方の意思を受け継いでここまで来れたというふうに思っています。様々な地域連携活動を経て私たちは協力の大切さや、課題発見力、解決力が身についたと実感しています。私たちはこれまでの経験を最大限に活かし、残りわずかな時間ではありますが様々な形で地域と寄り添い、課題解決に向けて精一杯頑張っていきますので、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

勝浦ゼミ長 蓼沼

